

令和 8 年度 学校経営方針

江戸川区立二之江小学校
校長 大石 吉郎

心のふるさと、地域の宝、未来を創る二之江小学校

1 はじめに

本校は、令和 3 年 4 月に二之江第三小学校と学校統合し現在に至る。新校章には、二之江第三小学校と二之江小学校、両行が共に「二之江の地域の発展を願う」という意味が込められている。

その背景を忘れずに、子供たちにとって「心のふるさと」になるように、地域にとっては未来を担う「宝」になるように、そして本校から育つ子供たちは、未来を自分の力で創り出す人間になってほしいという願いをこめている。

校章の由来

二之江第三小学校の「ペンと桜」と二之江小学校の「カシワの葉」重ね合わせ、二之江地域に流れる古川・新川をイメージして、「二之江」の文字は川の流れるを表す水色で彩られている。

カシワと桜のデザインの半分となっている箇所には鏡を立てると、全体が浮き上がる仕掛けを施し、これは、子供たちにこの二之江地域の中で学びながら、自分自身を見つめ直すことで、自分本来の姿が浮かび上がり、自立を目指すたくましい子供になってほしいという願いが込められている。



2 目指す学校像

- 子供の笑顔があふれる楽しい学校
- 教職員が育てることの喜びに満ちた学校
- 保護者、地域から信頼され愛される学校

3 学校の教育目標

- 「考える子」 （重点目標）
創造力や思考力を高め、自らすすんで考え、行動できる子供
- 「助け合う子」
自他を尊重し、思いやりの心と奉仕の心をもつ子供
- 「元気な子」
心身共に健康で最後までやりぬく子供

4 経営方針の具現化

- (1) 子供の笑顔があふれる楽しい学校
 - ・基礎的・基本的な学力の定着
 - ・共に生きる心を育む
 - ・体力向上、健康管理の資質や能力を育む
- (2) 教職員が育てることの喜びに満ちた学校
 - ・子供の可能性を引き出し、教育に対する情熱を持ち続ける教師
 - ・自己を見つめ、常に向上心を持ち続ける教師
 - ・組織の一員として、様々な立場の人の思いや願いを受け止め、
共に学び続ける教師
- (3) 保護者、地域から信頼され愛される学校
 - ・学校公開、情報の発信に努める
 - ・危機管理意識を常にもち、安全指導の充実を図る。*未然防止、危険回避
 - ・教育公務員としての自覚をもち、服務事故の防止に努める。
*「使命を全うする」

5 持続可能な社会の創り手【3つの視点】

- (1) 何ができるようになるか 育成を目指す資質・能力の明確化
持続可能な開発のための教育の視点に立った学習指導で重視する能力・態度
 - ・多面的・総合的に考える力
 - ・未来像を予測して計画を立てる力
 - ・コミュニケーションを行う力
 - ・他者と協力する態度・つながりを尊重する態度
 - ・すすんで参加する態度
- (2) 何を学ぶか 教育活動の見直し
《改善の視点》
 - 教科横断的な視点
 - 実施状況の評価・改善視点
 - 外部人材や地域資源等の活用の視点
- (3) どのように学ぶか 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
《3つのつながり》
 - ①教材のつながり
教材や各教科等の内容的なつながり、教室・学校と地域・社会・国・世界との空間的なつながり、過去・現在・未来といった時間的なつながりなどを図りながら学習を進める。
 - ②人とのつながり
子供同士のつながり、地域とのつながりを図りながら、多様な立場や世代の人々とのつながりが体験できる場を用意する。また、過去から現在、そして将来へのつながりを想像させる工夫を取り入れ授業改善を図る。
 - ③資質・能力を伸ばし実践へのつながり
学習活動を通して子供が身に付けた資質・能力を行動に移していくことや、実生活における実践につなげていくこと。

6 今年度の重点

- (1) 人権教育の推進 【助け合う子】
- (2) 確かな学力の定着と学力向上 【考える子】
- (3) 体力の向上の推進 【元気な子】
- (4) 特別支援教育の推進 【助け合う子】
- (5) 共育・協働【地域の宝】

7 実践への具体策

(1) 学習指導を充実させ、学習の基礎・基本の定着を図る ―考える子―

授業は教師の命である。子供の側に立って「わかる・楽しい授業」を目指す。「学ぶことの楽しさ・喜び」「成就感、達成感、満足感」を多く体験させたい。授業改善や新しいものを追求する教員の姿勢が生き生きとした授業を生む。子供の学習意欲を喚起させたい。

(2) 豊かな心の育成のための指導の充実を図る ―助け合う子―

人間性豊かに育てるために人間尊重の精神（共存共栄）を基盤に、他を思いやる心を育てることが大切である。

(3) 健康な体と心 ―元気な子―

体と心を一体として捉えて、全ての教育活動を通して生涯にわたって健康で生き生きとした生活を営む態度を育てる。

(4) インクルーシブ教育の推進 ―助け合う子―

- ・特別支援教育を充実させ、一人一人の子供を大切にする。
- ・SDGsの活動を通して、自分で考え、行動する力を育む。
- ・わかき学級との交流を通して、互いを尊重する態度と実践力を培う
- ・通常学級においても、特別支援教育の観点を取り入れ、充実した授業を展開する。

(5) 地域と共に歩む学校 ―地域の宝―

- ・地域と家庭と学校が密に連携した開かれた学校を目指すために、学校関係者評価を活用する。保護者アンケートの結果を踏まえて地域の要望等の傾向を把握し、改善策を立てて、一層の学校教育の充実を図る。
- ・保護者・地域と共に歩む学校づくりを目指すために、家庭・地域との連携を図る。
- ・家庭・地域・学校が共に育てる（共育）という観点にたち、三者がそれぞれのかかわりを通して「感動・喜び・存在感」を味わえるようにしたい。
- ・地域の清掃活動等（古川親水公園など）を通して、地域への奉仕活動を体験することで、地域の一員としての自覚を育む。

8 区の施策

- (1) 江戸川区学力の日 12月4日（金） 実施学年 第3学年から第6学年
実施教科 国語・算数・学習意識調査
*昨年度、算数強化校として取り組む

- (2) 英語教育の充実 小学校から中学校の9年間で躊躇なく英語を話す児童・生徒の育成
- ①活動例【第1・2学年】英語に関わる活動（月1回程度）、ALT派遣
【第4学年】体験型英語学習施設での学習
*見学料、バス代の費用は区が支払う
- ②土曜授業の1日を「English Day」とする。*英語での活動

9 研究・研修の充実を図る

□「自ら学び続ける者のみが人の師となり得る」

教師が学ぶ意欲をもたなければ、子供から学ぶ意欲は生まれない。教師の行いが子供に帰着するために常に、研究・研修に努める。

□校内研究を通して、授業改善を図る 国語科を通して

*タブレットの活用事例の共有

□若手研修・OJT

- ・職層（主幹・主任・教諭）に応じた研修を充実させ教師力の向上に努める。
- ・授業改善、児童理解等、児童の発達段階に応じた指導力を身に付け、指導力の向上に努める。